

南区

令和3年12月4日(土)

『着衣泳研修会』

熊本市消防局消防指令 杉谷 健氏

「はい、落ち着いてゆっくり仰向けになつてくださーい」プール内に響く指導員 杉谷 健さんの声に従って、みんな静かにぶかぶかと体を水面に浮かせました。これは、12月4日(土)アquadームくまもとのサブルーールで行われた着衣泳についてまての講習会の様子です。

「ううてまて」とは、万一誤つて水深のある場所に落水した場合でも、着衣と靴を履いた状態で沈まず水面に浮き、救助を待つ時間をつくる泳法のことです。浮くために泳げる・泳げないは関係なく、体力消耗が大きい立ち泳ぎより助かる可能性があるのです。

ブルーールでの実践前に予備学習として水難事故防止に関する座学で学んだ内容の一つで恐怖に感じたことは、入水すると水面に自然と浮くことができるのは、体全体に対して2%の部分しかないといこと

です。すなわ

ち人が垂直

に入水すれば、大凡おで

こから上の

一部しか水

面上に出ず、一方、仰

向けであれ

ば体が浮いた状態で、鼻

と口が水面上に出せて、救助が待てるとい

うことです。

また、身近なペットボトルが実際に浮き

輪代わりになることが体験でき、中年太り

真つ口中の私が浮くことを証明!しまし

た。

さて、研修の講師を務めた杉谷さんは熊

本市消防局職員として市民の命を守る仕

事をしながら、一般社団法人水難学会の

指導員として水難事故防止に取り組んで

おられます。

杉谷さんからブルーールで人が溺れたとき

は、「ドラマであるような派手な動きでは

なく、見た目には溺れているのか分かりづら

いものだよ」と

教わりました。他にもAED操

作及び胸骨圧迫による心肺

蘇生法の講習を受けました。

その後、場所を移して昼食をとりながら意見交換を行いました。長期にわたる新

型「コロナウィルスの影響でPTA活動が制

約を受ける中、各校が工夫して行えた活

動や取り組みを紹介し合いました。

今回の研修会では、水難事故防止を考

えるにあたり、実体験すること、より具

体的に考えるきっかけになれたと思いま



は溺れているのか分かりづら

いものだよ」と

教わりました。

他にもAED操

作及び胸骨圧

迫による心肺

蘇生法の講習

を受けました。

その後、場所を移して昼食をとりながら

意見交換を行いました。長期にわたる新

型「コロナウィルスの影響でPTA活動が制

約を受ける中、各校が工夫して行えた活

動や取り組みを紹介し合いました。

今回の研修会では、水難事故防止を考

えるにあたり、実体験すること、より具

体的に考えるきっかけになれたと思いま

した。今後は、例えば子どもにも自転車の交

通ルールとヘルメット着用義務の大切さを

教えることと同じように、水辺での遊び方

や救命胴衣着用が、あたりまえになつてく

ればよいと思いました。

今回、着衣泳研修会を行うことになつた

きっかけは、一昨年10月に南区内を流れ

る浜戸川で、児童が尊い命を落とす悲し

い事故が発生してしまい、みんなが辛い想

いを経験したからです。南区PTA連絡会

をはじめ、熊本市PTA協議会と連携し、

関係各所に陳情

し、水難事故防

止のための浮き

輪設置と啓発活

動に努めてきま

した。

多くの関係者

のご協力とご尽

力により、これら

のこを行うこと

とができました

ことを深く感謝いたしますとともに、研修

会開催にご協力いただきました皆様に謹

んでお礼申し上げます。

最後にこのような悲しい事故を招かぬ

よう、継続的な取り組みを行うとともに、

事故に遭われた児童のご冥福とご家族様

北区

令和4年2月6日(日)

『デジタルの学び・知識基盤

社会における学びのあり方』

熊本市教育センター主任指導主事 前田康裕氏

今、学校では子どもたちに1人1台のタブレットが配付され、コロナの影響も加わり学校の授業や家庭学習のあり方も変わりつつあります。新学習指導要領の実施により、2020年度からはプログ

ラミング教育が必修化しました。その矢先、コロナウィルスの脅威によりタブレット学習が本場に身近に、むしろ今ではあたり前になりました。便利に感じ、学校の休校などによりタブレット学習は

ありがたいなと思う一方、家ではYouTube などを見たり学習に関係のないことをしている姿や他のご家庭の様子を聞くと、親として良し悪しを感じていました。

私自身仕事でもパソコンやタブレット中心になり、ふ

とメモなどをする際に漢字がすぐに

出て来なかつたり、調べ物はすぐに

ネットで済ませるなどICTに頼りつぱなしで、スマホで

同僚・家族とのコミュニケーションや書類

作成や送付などで本場に意識をせずに毎日ICTを使っていますが、子どもが毎日

タブレットを家で触っていて調べ物を辞書ではなくタブレットでしている姿を見

て、やっぱり良し悪しを感じていました。本来の調べ学習は集めた情報を取捨選択

し、整理し、分析した上で自分たちはどう考えるのかを言葉にするまでが流れだ

と思うので、自分の手で本を使って調べ

ることも大切と思うからです。しかしそれではICTを上手に活用で

きず本来のメリットが失われていくのではないか、ICTの良さを認識した上で

意識を変える必要があると思いました。タブレットは「遊ぶための物」と捉えず、

一律に禁止で終わらせるのではなく、ルール決めをし、学習する子どもたちがICTをつまく使いこなせるような環境



を作りあげるのが学校・保護者の役割なのではないと思います。子どもがタブレットを親より使いこなしていて「すごいな、こんなこともできるの!」と感心させられます。そんな中でプログラミング教育

はスマホやタブレットに興味のある子どもたちからすると、可能性のある内容かもしれませんが。うまく授業に馴染めなかつた子どももタブレット学習になり発言する機会が増えたのだと思います。今までの授業のやり方では、早く問題を解いた子、発言が得意な子が手を挙げ、ク

ラスの中でのバランスがとれないということもあつたかと思いますが、ICTを活用しクラスみんなの意見や思いを画面を通して「見」で見られるようになること「こんな意見があるんだな」と共有や気付きになると思います。

学校でのタブレットの活用は子どもたちの学びを深めることはもちろん、先生方の職務改善が進むことで教育現場の環境改善にも効果が期待されるそうです。今後の受験や学習指導要領の方向性などから二十一世紀は「知識基盤社会」とも

言われており、性別や年齢を問わず色々なことに参画できる可能性が促進されていくそうです。ICT機器利用に対する

学びは親子で足並みを揃えていくのが望ましく、またマストなものとなっていくものと考えられますが、ICT機器はあくまでも「ツール」であり主役が「人間」であることに変わりはありません。

SNSでのトラブルも存在するのは確かですがそれだけでICTというツールを否定すべきではないと思います。「人が人に対して優しくなる社会の実現」をアシ

ストするためのツールであることを知り、子どもたちの学びを効果的で効率的にする家庭学習のヒントをこの研修で得られたと思います。

この研修を受けて私の周りの方々からは「目からうろこだった、感心した!感動した!」との声を聞きました。短い時間でしたがとても考えさせられ実り多い時間となりました。PTA活動の中でも

学びを深めていければと思います。(武蔵小学校 副会長 石永麻衣)



研修会の様子

令和3年度

「ふれあい読書研究会・

C P読書プラン」

中間報告会に参加して

令和3年12月15日(水)県総合福祉センターで行われた「ふれあい読書研究会・C P読書プラン」の中間報告会に参加しましたので、そのことについての感想を述べたいと思います。

この中間報告会には、県PTA、市PTAの各エリア・各区の代表校合わせて24校が参加されました。それぞれ4校ずつのグループに分かれて各校のふれあい読書研究会・C P読書プランへの取り組みを発表し、意見交換を行いました。

私のグループは合志南小、今津小、岩野小、飽田西小の4校で、それぞれの取り組みについて発表したり、課題についての意見を



出したりと大変有意義な時間になったと思います。特に読み聞かせを行ってくれる人の減少についての解決策に、読み聞かせをする本をあらかじめ決めておくこと。それによって、読み聞かせを行ってくれる人の参加へのハードルを下げるという意見は参考になりました。私たちの学校でも年々読み聞かせを行ってくれる人が少なくなっているの、一つの対策として取り組みれば

と思います。

報告会の最後にはそれぞれのグループの発表があり、各学校の取り組みを学べたことや熊本市だけでなく熊本県全体の活動を聞けたことは、とても勉強になりました。今後は今回の中間報告会で学んだことをそれぞれの学校での取り組みに反映して行ければ

と思います。最後に、このような会に参加できたことは凄く良い経験となりました。これからも続けて

いって欲しいと思います。(飽田西小学校 副会長 豊住豪)

第13回くまもと教育・文化フォーラム

美術展

第13回「くまもと教育・文化フォーラム」美術展が令和3年11月10日(水)15日(月)の期間に熊本市退職校長会の主催 熊本市PTA協議会等の共催により開催されました。

会場の鶴屋東館8Fふれあいギャラリーには、さまざまなジャンルの作品48点が所狭しと展示され、華やかな雰囲気を出していました。

絵画、書道、写真、彫刻、工芸品とそれぞれの力作が並ぶ中、現在の世相を映した作品も。美しい桜の写真に付けられたタイトルは「来年は花見に行きたいです!」という多くの

方の心の叫びを代弁するもの。また、男の子が海に飛び込む瞬間の写真には「俺の大冒険」というタイトル。東京



オリンピックでの名実況を思い出しますね。幻想的な絵画から、御年90歳を越えられた方の荘厳な書道、華やかなフラワーアレンジメントまで本場に多様な作品があり、飽きることなく鑑賞することができました。来年度はぜひ多くの方にご覧



いたきたいと思います。主催者にお伺いしたところ、展示の作品をどしどし募集中のこと。(9月10月)我こそはと思われる方ぜひ作品を応募してみられては?

(壺川小学校 副会長 和田光司)

各区PTA連絡会研修会開かれる

中央区

令和4年
2月5日(土)

『子どもの困ったをポジティブ
に変える「25%ルール」』

～「伝える」意識と「伝える」コミュニケーション～

株式会社ピアヒロ 諸隈淳子氏

2月5日(土)14時から中央区の研修会が3年ぶりにリモートで行われました。心理カウンセラーである株式会社ピアヒロの諸隈淳子氏を講師にお招きして、子どもが持つ困り感についてお話しいただきました。諸隈氏は自身が子育ての中で苦労してきたことの延長線上に心理カウンセラーという仕事があり、自身の経験をもとにわかりやすく実際の例を交えながらお話しくださいました。子どもが困っていることを、私たち親や大人にも体験してもらうべく演習も交えながら「子どもがどんなことで困るのかを詳しく紹介されました。子どもとのコミュニケーションで悩んだことのない親はいません。と同時に子どもも親とのコミュニケーションで困り感を覚えている。例えば、親子の何気ない会話の中にも、伝える方と伝わる方とのすれ違いが常に起きていること。子どもの特性を理解せず、大人の一方的な思い込みや期待で子どもを苦しめていることなど、諸隈氏のお話には共感できることばかりで、終始思い当たる節があるところなずきながら拝聴していました。



毎日の生活の中で振り返ってみると、親の無理解な言葉や態度で子どもを知らず知らずのうちに追い込んでいた困り感を与えていたことに気づかされました。子どもにも「伝える」ときの工夫としては、言葉や考え方の主語を「あなたではなく「私」に変えること。そして「私の子ども」ではなく「私と子ども」と考えて生活する」と。視覚を利用して伝えること。自分の気持ちを伝える

ことなどを紹介していただきました。また子どもから「受け取る工夫」としては、①素直に受け取り、つい言ってしまうがちな余計な一言は言わないこと。②子どもの考え方や今までの傾向を勘ぐらず、ポジティブに受け取る。そして、③肩の荷を下ろして「25%の相手を確認することが大切だ」とおっしゃいました。

私たちは親は子どもに対して過度な期待を持ちがちです。それが子どもはもう親である自身も苦しめていることに気づかせていただきました。子どもがパジャマに着替えて、洋服をたたんで、歯磨きをして、早く寝るといつ120%を求めるのではなく、時にはパジャマに着替えようとした25%のことを認めて、褒める。すると今度から子どもが自ら着替える(50%)洋服をたたむことまでする(80%)と諸隈氏は言います。120%を求めすぎても喧々した親子関係になついたらと反省させられました。

ポジティブなルーティンづくりが親子や日々の生活には必要です。それが特別な資格や学習はいらず、ちよとした工夫でできる。子どもの視線や伝え方の順番など、今までは気にも留めなかったことも、諸隈氏に気づかせていただいたことで今からでも実践できる。親と子のたった25%のポジティブなルーティンづくりがこれでできそう、という実りある研修会だったと感じた有意義な講演会でした。

(熊本大学教育学部附属小学校
副会長 福田 勇)

西区

令和4年2月5日(土)

『スマホ時代の子育て』

帯山中学校教頭 田中慎一朗氏

令和3年度西区研修会は、令和4年2月5日土曜午後2時より、講師に帯山中学校教頭 田中慎一朗氏をお迎えし、「スマホ時代の子育て」助けを伝えずに苦しむ子どもとの理解と対応」という演題で、熊本城ホール小会議室よりYouTubeでのライブ配信で行われました。自宅家族と共に先生のお話を聞くことができ、とても身近に感じながらの講演会となりました。今の社会でなくてはならないスマホや、パソコン・SNSによって、インターネット依存の恐怖・子どもたちが抱えている悩み・課題に触れ、わかりやすくパワーポイントや具体的な例をあげながらのお話に画面から目が離せませんでした。心の成長を怪我に例え、人間は子どもの頃から教わったり、怪我を経験し治る体験をしたりすることにより行動範囲や考える力をつけることが大切であると話されました。



また今の子どもたちの特徴として、①傷つくとを極度に恐れるのは、心の擦り傷経験の乏しさ

②身近な人に助けてが言えない：過剰反応への遠慮や、不寛容な監視社会からくるもの

③折り合いをつける力の低下

などを言われ、私たち大人が子どもの育つ力を止めているかもしれないと考えさせられました。

子どもたちには安全・安心な環境を与えてあげること。甘やかしと、甘えさせることの違い。本音で弱音をはいたりできる、自分の気持ちを素直に言える環境を私たち大人が作ってあげるこの大切さを学びました。

悩み事を相談するときに、軽い相談は友達に相談できるが深い悩みは親にする人数が、ネットの世界に依存している子どもたちは親に相談する割合が低いことを聞き、悩みを話せる大人がいらない：話を聞いてくれる大人がいない現実があると先生は話されます。子どもの目線にあわせて声をかける。話を聞く。声をかけるときは返事が返ってくる言葉のキャッチボールができる言葉をかける。と、すぐにでも実践できることがたくさんありました。

10代で行方不明や、自ら命を絶つ子どもたちがたくさんいます。時代や子

どもたちを取り巻く環境もどんどん変わっていきませんが、会ったこともないネットの世界の誰かを頼るより身近な家族を頼ってほしい。何でも話してほしい。忙しい毎日の中でも毎日顔を見て安心を与えられる存在に私たち親はなりたいたい、ならなくてはいけないと心の底から思えた講演会でした。

講師の田中先生、西区代表幹事の山本会長、この研修会を企画してくださった河内・芳野中学校グループの皆様、この度の貴重な研修会の時間を作っていただきありがとうございました。

(三和中学校 副会長 野口千鶴)



東区

令和4年3月6日(日)

『生きるために生きる！
野生動物の力強さ』

熊本市動植物園

副園長・獣医師 松本充史氏

会場：錦ヶ丘中学校体育館

対象者：東区小中学校PTA会員と児童生徒

参加費：無料

東区PTA連絡会では、会員の学びの場として毎年研修会を開催しております。今年度は東区の象徴的施設である熊本市動植物園から松本副園長をお招きして、動物の生態や熊本地震当時の状況など、普段なかなか見ることのできない園のバックヤードの様子をお話ししていただきます。

映像を使った動物の生態の紹介など、お子様も楽しめる内容です。ぜひ親子揃ってご参加ください。

熊本市PTA共済のご案内 (熊本市PTA教育振興財団)

児童生徒の皆さん、PTA会員の皆さんの教育活動中の被災に対する共済金の給付

児童生徒の学校生活・部活動・登下校中、PTA活動参加中の事故に対して

P災コース

PTA会員 (保護者、教職員) のPTA活動参加中の事故に対して

安互コース

●死亡共済金：

事故や急性の疾病による死亡、突然死

●後遺障害共済金：

事故や急性の疾病による後遺障害

●交通事故共済金：

交通事故による死亡・傷害・負傷



PTA共済Q&A

Q 中学校の部活動中に、転倒して前歯が2本大きく破折して保険外治療を受けましたが、共済金の給付は受けられますか？

A 保険外治療の部分について、歯科特別共済金が給付されます。(規定額)

Q 社会体育活動に参加中のけがは給付の対象になりますか？

A 給付対象ではありません。

Q 学校の休み時間に友だちとぶつかり、相手の眼鏡が壊れましたが、修理代の給付は受けられますか？

A 物損は対象ではありません。

詳しくはPTA共済ホームページを



(財)熊本市PTA教育振興財団

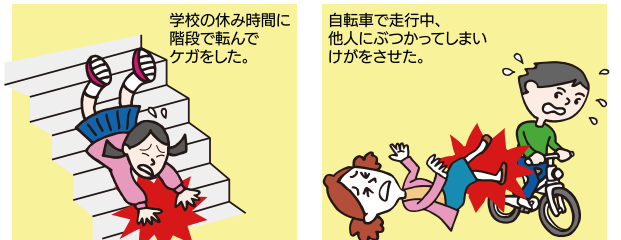
TEL096-223-7119 月曜～金曜・9時～17時

熊本市PTA協議会

小・中学生総合保障制度のご案内

(こども総合保険)

学校内外でのケガや、偶然な事故による法律上の損害賠償責任などさまざまなリスクを補償します。



さらに、お子さまが病気になる時の補償や、お子さまの持ち物の補償、扶養者の方に万が一があった時の補償など、多くの補償でお子さまをお守りします。*



この制度の詳細内容は、こちらからご確認いただけます。

『お子さまのための総合保障制度』 <https://riskfinder.jp/school/>



※補償内容、保険金額はプランにより異なります。
○この広告に記載の内容は、2022年1月現在の内容です。
ご加入の際には、パンフレットおよび重要事項説明書必ずお読み頂いた上で申し込みください。

お問い合わせ

熊本市PTA協議会 小・中学生総合保障制度事務局

TEL:0120-228-553

受付時間：平日/午前9時～午後5時 〒810-0022 福岡市中央区薬院4-3-5 セレス薬院5F 株式会社コーリン内
制度引受保険会社：AIG損害保険(株)、東京海上日動火災保険(株)、損害保険ジャパン(株)、
三井住友海上火災保険(株)、Chubb損害保険(株)

S-220362 (2022-12)

地域を花で飾ろう

中央区【江南中学校】

江南中学校は、市内のほぼ中心に位置し、産業道路と3号線の交差点近くにある全校生徒188名の学校です。隣接する向山小学校とは、小中一貫校として交流を続けています。特に、向山幼稚園、向山小学校、江南中学校合同での歓迎遠足は市内でも珍しく、園児の手を引いてゆくり歩く江南中生の姿は微笑ましいものです。また、地域の皆さんとの交流も盛んで、向山校区夏祭りをはじめ、防災と健康フェスタや地域清掃などの活動をしています。ただ、これらの活動は、現在はコロナ禍で行っておりません。

このように、さまざまな行事が中止になる中、江南中学校は地域の皆さんと協力して「全国都市緑化くまもとフェアくまも



『40周年』

東区【東町中学校】

熊本市立東町中学校は昭和57年に設立され、今年で40周年を迎える学校です。

本校は、熊本市東部の東町4丁目15番1号に位置し、校地面積21500㎡(6515坪)を有しています。グラウンドは小学校と共有していますので、正式なサッカー場(105m×68m)としても利用できます。

近隣には、県立第二高校、県立東稜高校、県立盲学校、県立熊本聾学校税



と花と緑の博覧会に向けた取り組みに参加しています。総合的な学習の時間を使って、地域の方から教わりながら、昨年10月に3年生がキンセンカやナデシコなどの種をまきました。その後、緑化委員を中心に苗を育て、1月には下級生が、育った花苗を産業道路沿いの花壇に植えました。

このように取り組みを通して、花を育てる楽しさを感じながら、みんなで継続して協力し、心とからだを元気にすることができました。

この会報が届くころには、子どもたちが育てた花が咲き、たくさんの人の心を豊かに、笑顔にしてくれることでしょう。

(江南中学校 副会長 緒方麻衣子)



「自律」と「協生」

北区【鹿南中学校】

鹿南中学校は創立75年、学校周辺には史跡田原坂を中心に西南の役の古戦場が点在し、自然に恵まれた良好な教育環境の中にある学校です。



学校教育目標に「自律と協生」を掲げて、自ら課題を見つけ学び続ける生徒の育成、主体的に判断して行動できる生徒の育成、他者と協力してよりよい生活を築こうとする生徒の育成を目指しています。

全11学級、全校生徒294名と決して大きな学校ではありませんが、運動部12部、文化部2部と多くの部活動があります。

その中でも女子弓道部は熊本市・熊本県中体連共に優勝、JOCジュニアオリンピックカップ大会、団体戦、個人のダ



ブル優勝で全国制覇を成し遂げました。

コロナ禍の状況でこのような立派な成績がおさめられたのも学校、生徒、保護者の全ての連携があったからだと思います。

今後も部活動だけでなく様々な学校行事など協力しあい、生徒のよりよい学校生活のために取り組んでいきたいです。

(鹿南中学校 副会長 井上梨絵)



リサイクル

制服販売会

南区【日吉中学校】

2021年12月4日にリサイクル制服の販売会を初めて行いました。

コロナウイルスの影響で数少ないPTA活動ですが、事前の仕分けや点検、販売会当日の運営などを行いました。

販売対象は、日吉中学校・日吉小学校・日吉東小学校の3校。販売品はブレザーやスボン・スカートといった制服から体操服や通学バックなど約130点ほど。

当日は43名のご来場をいただき皆さんに喜んでいただきました。また、次回開催に向けて貴重なご意見もいただきました。

今後定期的な開催に向けて準備していきたいと思っています。

(日吉中学校 副会長 村上 孝)



今、できることを

西区【三和中学校】

三和中学校は、独鈷山を背に、協力・進取・正義・知性を校訓に池上小学校、高橋小学校、城山小学校の3小学校からなり三つの、和を大切する中学校です。生徒数は、542人で部活動もとても盛んで文化部・運動部共に頑張っています。学校入り口のフラワールードから挨拶運動で元気な声が聞こえてきます。

昨年12月22日には、城山公園から熊本新港まで往復約13キロの距離をグループに分かれ力を合わせて完歩する耐寒競争会が開催されました。



先生・保護者の会でルートを見守り、無事にゴールを切る事ができました。三和PTAでは「コロナ禍でも子どもたちのためにできること」はないかと先生方・地域の皆様と共にこれからも、できることを楽しんで活動していきたいです。(写真は、親父の会の、手作り門松です)

(三和中学校 副会長 野口千鶴)



編集後記

今年度も昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、思うように活動ができなかった単位PTAさんがほとんどではないでしょうか。コロナ禍でも単位PTAさんの創意工夫あふれる活動を紹介しておりますので、参考になさってください。

136号編集にご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。

広報委員長 井手和宏 (城南小)

136号編集委員(順不同/敬称略)

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 佐土原 真一 (東町中) | 津川 真一 (力吉中) | 安部 真一 (天明中) | 岡上 正明 (飽南小) | 東本 正明 (泉ヶ丘小) | 遠藤 洋史 (秋津小) | 石永 麻衣 (西里小) | 田中 綾子 (武蔵小) | 林上 能樹 (池上小) | 井田 真理 (城山小) | 野口 千鶴 (三和中) | 小園 和剛 (中島小) | 羽山 直角 (常山小) | 田代 京嗣 (託原小) | 福田 勇 (附属小) | 井上 梨絵 (鹿南中) | 緒方麻衣子 (江南中) | 豊住 光 (壺川小) | 本田 康 (東町小) | 鎌田 康 (健軍東小) | 藤本 博之 (東町小) |
|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------|------------|-------------|-------------|